

二次対策工について

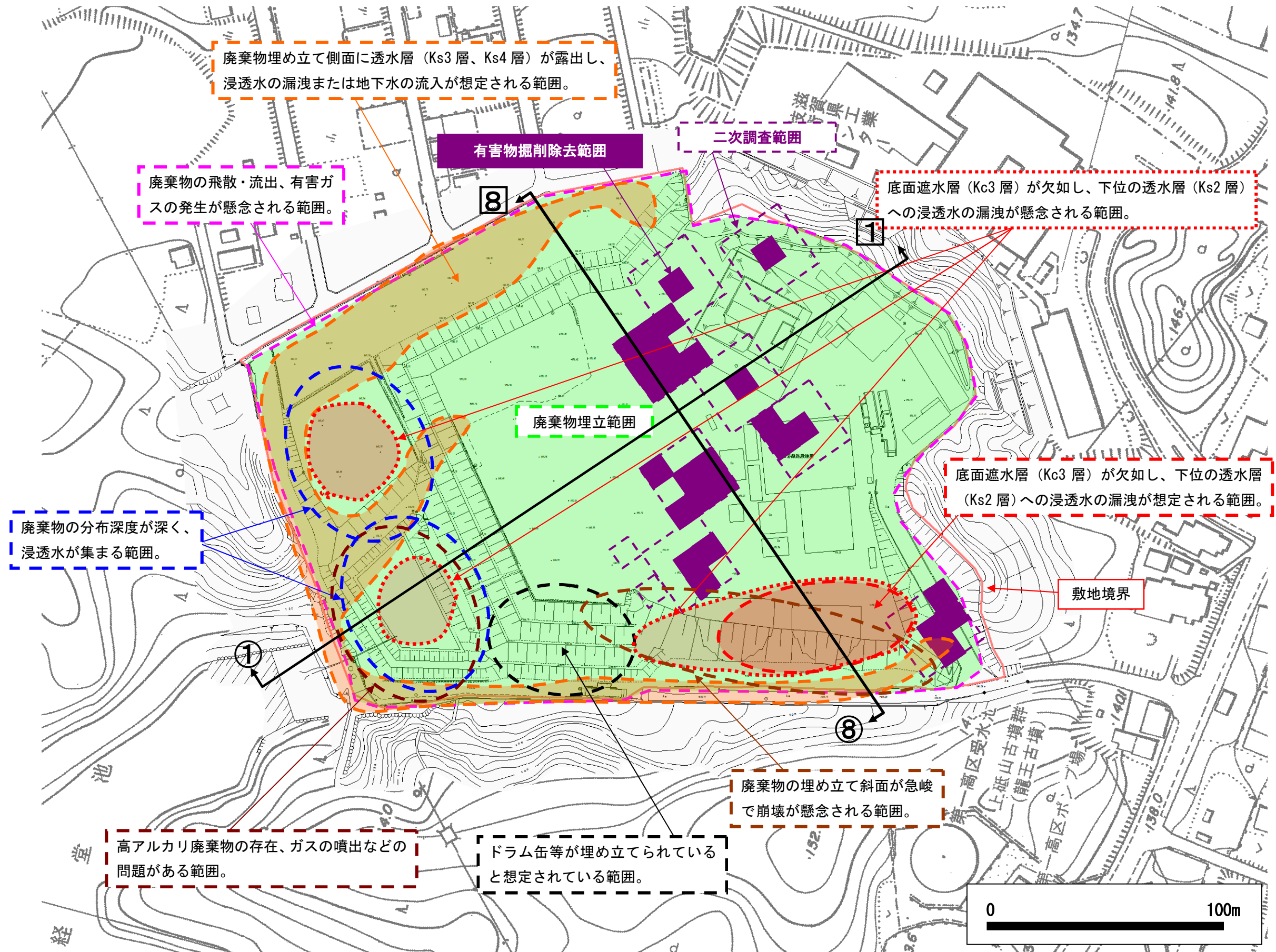
資料 2 - 4

支障等	支障等の原因	対策基本方針	対策工法	数量	備考
①汚染地下水拡散	廃棄物土からの有害物溶出	有害物掘削除去	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 廃棄物土の掘削・分別</li> <li>→ 有害物・廃棄物の処理処分</li> <li>→ 埋め戻し</li> </ul>	25.0 万 m <sup>3</sup> 6.3 万 m <sup>3</sup> 18.7 万 m <sup>3</sup>	○廃棄物土総量 714,000 m <sup>3</sup> (推定)  ○対策地 (旧処分場+沈砂池) 底面積 53,000 m <sup>2</sup>  ○対策地周長 960m
	底面からの漏出 側面からの漏出	底面透水層の遮水 側面透水層の遮水	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 底面粘土層の修復</li> <li>→ 側面透水層の遮水</li> <li>→ 鉛直遮水工</li> </ul>	底面:5,000 m <sup>2</sup> 側面:4,000 m <sup>2</sup> 約 300m(6,000 m <sup>3</sup> )	
		浸透水水位低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 底面排水管</li> <li>→ 浸透水貯留層+集水ピット</li> <li>→ 浸透水揚水</li> </ul>	400m	
		浸透水処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 浸透水処理</li> </ul> →下水道放流	300 m <sup>3</sup> /日	
		周辺地下水の供給	周辺地下水流入抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ (側面透水層の遮水)</li> <li>→ (鉛直遮水工)</li> </ul>	
	雨水の流入	雨水流入抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ キャッピング</li> </ul>	40,000 m <sup>2</sup>	
②廃棄物の飛散流出	廃棄物の露出	キャッピング			
	急勾配法面の崩落	法面整形	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 法面整形</li> </ul>		
③硫化水素ガスによる悪臭	ガス生成原因物 水の供給 嫌気化 未覆土	原因物掘削除去 浸透水水位低下 酸素の供給 キャッピング	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ (上記対策を講じることにより、硫化水素ガスの生成・拡散を抑止)</li> </ul>		

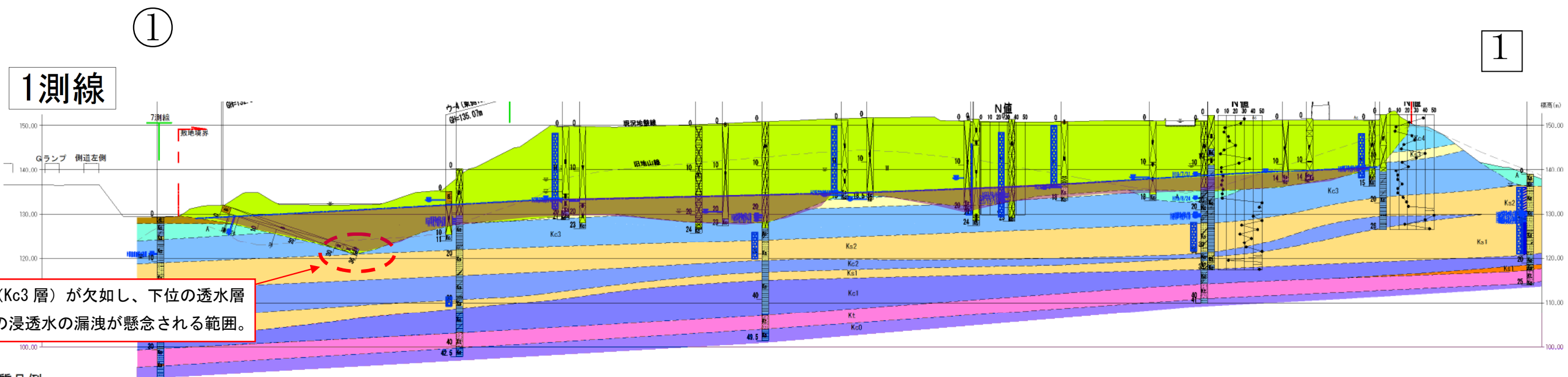
※ 掘削した廃棄物土の 4 分の 3 を埋め戻すと想定

○ 工事期間 : 4 ~ 6 年 (工事完了後、3 年程度は水処理の継続が必要)

○ 二次対策工事費 : 40 ~ 70 億円程度



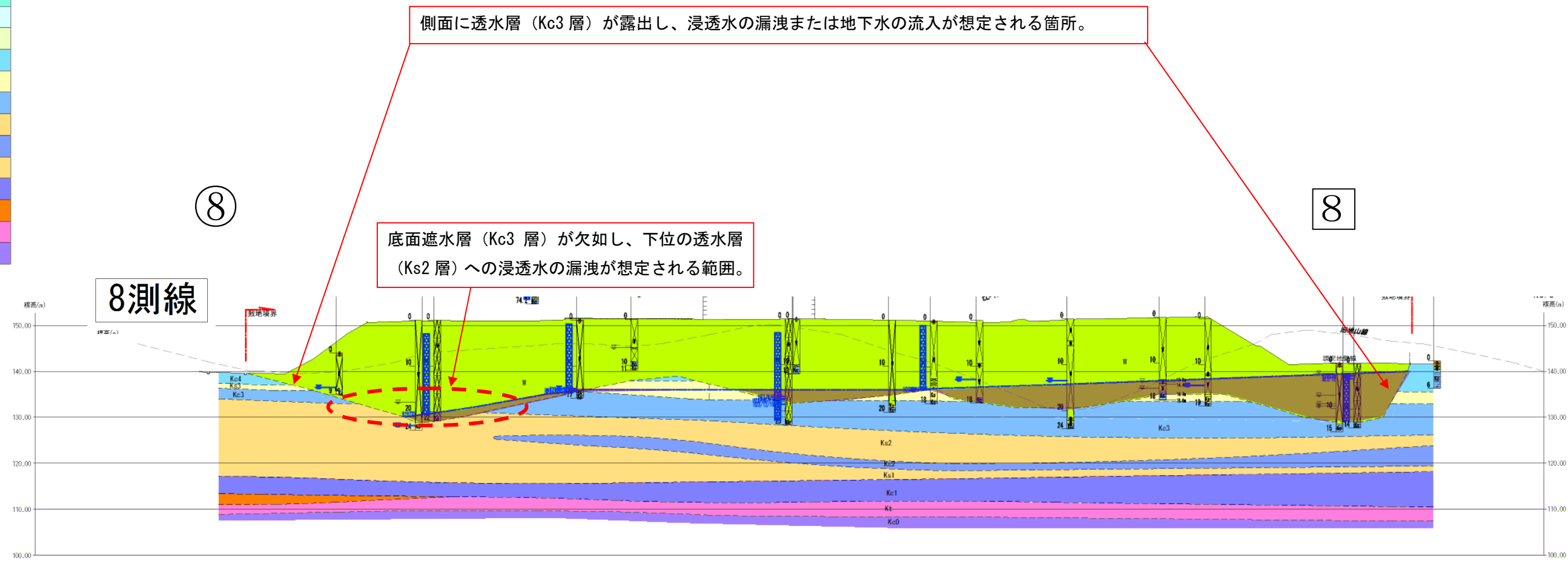
解決すべき課題のある箇所 (平面図)



底面遮水層 (Kc3 層) が欠如し、下位の透水層 (Ks2 層) への浸透水の漏洩が懸念される範囲。

地質凡例

地層名	地質名	記号
盛土層	廃棄物	W
	粘性土	Bc
	盛土・埋土	B
沖積層	堆積物	A
古琵琶湖層群	粘土・シルト	Kc5
	砂質土	Ks4
	粘土・シルト	Kc4
	砂質土	Ks3
	粘土・シルト	Kc3
	砂質土	Ks2
	粘土・シルト	Kc2
	砂質土	Ks1
	粘土・シルト	Kc1
	砂質土	Ks1'
火山灰	Kt	
粘土・シルト	Kc0	

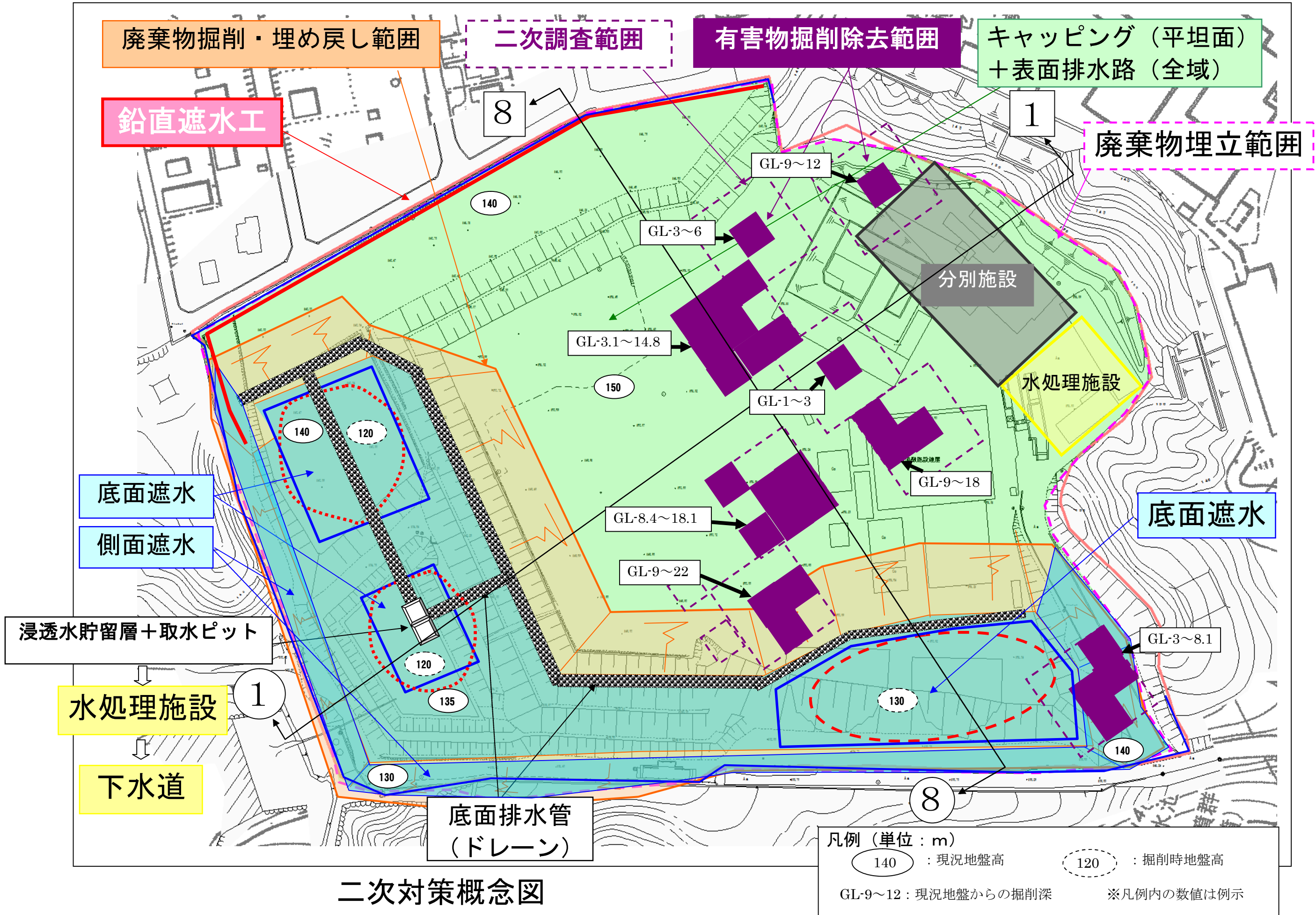


側面に透水層 (Kc3 層) が露出し、浸透水の漏洩または地下水の流入が想定される箇所。

底面遮水層 (Kc3 層) が欠如し、下位の透水層 (Ks2 層) への浸透水の漏洩が想定される範囲。

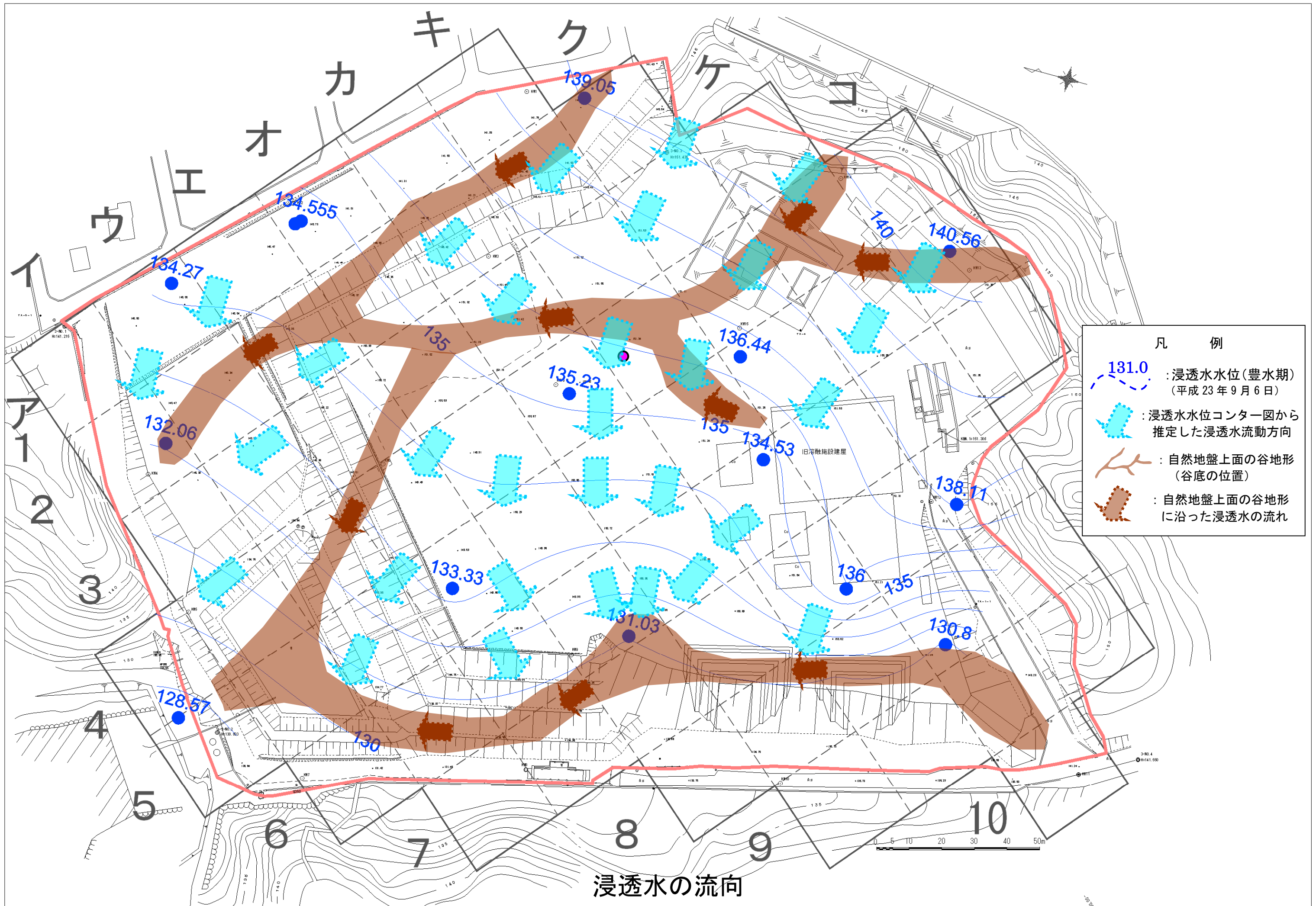
想定地質断面図





二次対策概念図

凡例 (単位 : m)  
 ○140 : 現況地盤高      ○120 : 掘削時地盤高  
 GL-9~12 : 現況地盤からの掘削深      ※凡例内の数値は例示



凡 例

- ⋯ 131.0 : 浸透水水位(豊水期)  
(平成 23 年 9 月 6 日)
- : 浸透水水位コンター図から  
推定した浸透水流動方向
- : 自然地盤上面の谷地形  
(谷底の位置)
- : 自然地盤上面の谷地形  
に沿った浸透水の流れ

